

和歌山だよいい

平成22年
(2010) 4月号



道成寺 (日高川町)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P7
3. お知らせ…………… P8～P11
4. ふるさと歳時記…………… P12



桃

「新政策」

平成 22 年度の和歌山県の「新政策」のねらいは、「明日への希望と今日についての安心」ということです。そのために練りに練った政策を用意しました。

和歌山県は、私が就任しましてから、この「新政策」という政策の検討、決定の一連の作業の流れを採用することにしました。従来は、予算は予算の流れがあり、国に対する要望はこれとは別に・・・といった具合に、それぞれがばらばらに行われていました。「新政策」の作業は、これを 1 年かけてしかも統合した形で行おうとするものです。

新年度が始まる 4 月から、和歌山県では、その年度の政策の実施に加えて、次の年度の政策の検討に入ります。実態をよく勉強し問題点を洗い出して、問題の解決のためには、県として何をしなければいけないかを、単にお金をかけるかどうかだけでなく、色々な手段を含めて皆で検討します。そして、必要だということになった政策のうち、国に要望すべきものは、5 月か 6 月に要望してしまいます。この頃は、国の方でも国自体の新政策の企画をする頃なので、この時期を失すると 1 年遅れになってしまうからです。その上で、県独自でも行うべきと考える政策は、夏にかけてどんどん検討を深めて磨きをかけ、9 月か 10 月には来年度の新政策の骨格という形で世に問うた後、この新政策を予算編成という形で裏付けていくわけです。そして事務的に積み上げた結果を、知事査定を経て最終的な予算案にするのが 2 月。来年度の新政策と予算案ということで発表し、さらに県議会の審議をお願いして、3 月にはようやく来年度の新政策が固まるわけです。

このように平成 22 年度の新政策は、和歌山県を挙げて、1 年の歳月をかけて創り上げた作品です。実施はこれからです。新政策のねらい通り、少しでも県民の皆さんにとって希望と安心を増やすものであることを祈ります。



4 月 4 日、プロ野球・関西独立リーグ、紀州レンジャーズの地元初戦（紀三井寺球場）で始球式を努める仁坂知事

（写真提供）
わかやま新報

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●平成22年度 組織の新体制について（主な組織改正）

1 過疎対策への重点的な取り組みに向けた体制整備

・過疎対策課を設置し、過疎生活圏において、日常生活機能の確保や地域の活性化を推進していきます。

2 産業技術振興・企業支援の推進

・企業振興課と産業技術政策課を設置し、「和歌山県新技術創出推進条例」に基づく新たな施策の推進と、県内中小企業の販路拡大等への支援強化に取り組んでいきます。

3 廃棄物行政の一元化

・循環型社会推進課と廃棄物対策課を統合し、廃棄物行政を一元化するとともに、廃棄物指導室を設置し、不法投棄・不適正事案に機動的に取り組んでいきます。

4 森林・林業局の再編

・林業振興課、森林整備課、山村整備課を2課に再編するとともに、全国植樹祭推進課を設置し、平成23年度に開催される全国植樹祭に向け、全庁を挙げ開催準備に取り組んでいきます。

5 新たな施策への対応等

- ・消費者被害から県民を守るため消費生活センターの機能を強化します。
- ・青少年・男女共同参画課に自立支援班を設置し、若者の自立を総合的に支援していきます。
- ・医務課に公立大学法人班を設置し、県立医科大学の所管を移管することにより、県の医療施策と直接連携する体制を整備しました。
- ・観光振興課に世界遺産班を設置し、世界遺産の保全と活用を一体的に推進していきます。
- ・産業技術政策課に企画・エネルギー班を設置し、産業振興の施策とエネルギー等の研究開発を一体的に推進していきます。

●JALと（株）モン シュシュ、和歌山県のコラボレート

「まりひめ」と米粉を使った「まりひめ米粉ロール」新発売！

・先月号で、「プリンセスロール」をご紹介しましたが、この度、日本航空、(株)モン シュシュ、和歌山県のコラボレートによる“まりひめ”と“米粉”を使用した「まりひめ米粉ロール」が発売されました。

・4月限定販売で、JAL グループ空港店舗「BLUE SKY」羽田空港、伊丹空港の各店舗で販売されています。皆さん是非お試し下さい。なお、今回は、食品自給率向上に向けた国民運動「FOOD ACTION NIPPON(フード・アクション・ニッポン)」の取組の一環として実施されました。



●「経済センタービル閉鎖に伴う感謝の集い」を開催

・昭和33年の建設以来、長年、県民に親しまれてきた「経済センター」が3月末で閉鎖することになりました。3月24日、ビル建設時にご寄付をいただいた方への、感謝の集いを開催し、仁坂知事から感謝状を贈呈しました。当日はご寄付をいただいた方26名を含む関係者約60名が出席、県経営者協会の塩路専務の解説で、当時の懐かしい写真などを見ながら歓談しました。

・同ビルは耐震診断の結果、基準を満たしていないことが判明し、閉鎖後は撤去する予定になっています。跡地利用については、和歌山市内中心部に位置することから、今後、有効な活用方法を検討していきます。



和歌山県経済センター
昭和33年 建設当時の全景（地上5階 地下1階建）

●「企業の森」事業に1団体が参画し、53箇所

・「企業の森」事業に新たに、大阪府泉南地方及び県内で奉仕活動を行っている「国際ロータリー第2640地区」が参画することとなり、4月2日に県庁で調印式を行いました（写真）。

・国際ロータリー第2640地区は、平成16年に国際ロータリークラブ100周年社会奉仕プロジェクトの一環として、高野町で「ロータリー100年の森」の活動をされており、今回は2例目の活動となります。「企業の森」は県内で現在52箇所あり、今回の「ロータリー 熊野の森」の参画で53箇所となります。和歌山県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。



●建設工事に係る入札・契約に関する事務改善を実施

・和歌山県では、平成20年6月から新公共調達制度として条件付き一般競争入札を全面導入してきました。今般、建設工事に係る入札・契約に関し、受注者、発注者双方の事務の効率化のため、提出書類を見直し、簡素化を実施します。

【簡素化の内容】

1 入札参加資格審査申請書の簡素化

・申請書に記載した内容を証明する資料等について、可能な限り省略します。

2 工事中、完成後の提出書類の簡素化

・契約書、建設業法等に基づいた最小限の書類とし、可能な限り省略します。

3 工事成績評定（工事検査時）の改善

・簡易評定の適用金額を、契約金額250万円未満から1,500万円未満に拡大します。

以上の内容を、平成22年4月1日以降から適用します。

（入札参加資格審査関係は平成24・25年度申請から適用します。）

● 「紀の国先人展2010」が開会

・3月24日、紀の国先人展2010の開会記念式典が、和歌山市のきのくに志学館文化情報センターで開催されました。

・紀の国先人展は、輝かしい業績を残した先人を顕彰することで、県民、特に時代を担う子供たちに郷土への誇りや愛着、夢や目標を持ってもらうことを目的に、平成16年度から開催しています。今回は「社会・政治の先人たち」を顕彰し、3月24日から約1年間の展示を予定しています。

・仁坂知事は、「和歌山には大変立派な偉人がたくさんいる、そのことに対し普段の我々は意識が足りないと思う。是非、そういった偉人のことをよく知り、讃えていきたい」と、祝辞を述べました。

【今回紹介する先人一覧】

	氏名	紹介
1	片山 哲 (かたやま てつ)	和歌山県人初の内閣総理大臣
2	児玉 仲児 (こだま ちゅうじ)	自由民権運動の牽引者
3	田淵 豊吉 (たぶち とよきち)	多くの名演説を残した哲人政治家
4	津田 出 (つだ いずる)	明治新政府に大きな影響を与えた藩政改革を断行
5	野村 吉三郎 (のむら きちさぶろう)	対米交渉に尽力した駐米大使、海軍大将
6	陸奥 宗光 (むつ むねみつ)	日本外交史に輝かしい功績を残した 「カミソリ大臣」
7	山口 熊野 (やまぐち ゆや)	紀伊半島に鉄道敷設した功労者
8	岡本 弥 (おかもと わたる)	融和運動に生涯を捧げた部落解放の先駆者
9	奥野 健一 (おくの けんいち)	「疑わしきは罰せず」の最高裁判事
10	栗須 七郎 (くりす しちろう)	あらゆる差別と闘い続けた「水平の行者」
11	西光 万吉 (さいこう まんきち)	全国水平社宣言を起草 「人の世に熱あれ 人間に光りあれ」
12	下村 海南 (しもむら かいなん)	多彩な分野で活躍した官僚、ジャーナリスト
13	杉村 楚人冠 (すぎむら そじんかん)	新聞の発展に大きな足跡を残したジャーナリスト
14	毛利 柴庵 (もうり さいあん)	言論の自由を尊重した反骨のジャーナリスト
15	田中 敬忠 (たなか よしただ)	史跡保護に尽くした郷土史研究者
16	河島 敬蔵 (かわしま けいぞう)	日本初のシェイクスピア劇翻訳者
17	三宅 米吉 (みやけ よねきち)	考古学の発展に尽くした歴史学者
18	佐藤 春夫 (さとうはるお)	ふるさとをこよなく愛した望郷の詩人
19	華岡 青洲 (はなおかせいしゅう)	世界で初めて全身麻酔手術に成功した医聖
20	南方 熊楠 (みなかたくまぐす)	世界の学者を振り向かせた博物界の巨星

●世界遺産5周年記念コンサートが盛大に開催！！

・「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録5周年を記念し、世界遺産と芸術の融合をテーマとした県世界遺産公演が田辺市の大斎原と高野山壇上伽藍で開催されました。ジャズプレイヤーの渡辺貞夫さんと谷村新司さんのコンサートに多くの観客が魅了されました。

①世界遺産に響き渡るジャズのリズムと子どもたちの歌声

～ 渡辺 貞夫コンサート ～

・3月27日、世界遺産公演 PartIV～渡辺貞夫と子どもたち～Share the World in Kumano … ころつないで…が桜満開の熊野本宮大社旧社地大斎原で多くの観客を迎え、盛大に開催されました。

・渡辺貞夫さん、県立田辺中学校高等学校合唱部70名、宇都宮市の中学生高校生ドラムチーム「エスコラ・ジャフロ」15名がジョイントコンサート。サクスの音色と子どもたちの歌声がジャズのリズムと一体となって熊野の山々にこだまし、幻想的な雰囲気の中で、ステージ上で繰り広げられる素晴らしい演奏と、子どもたちのコーラスが観客の心に響きました。



②夜空に響き渡る歌声。荘厳な雰囲気の中での熱唱

～ 谷村 新司コンサート ～

・3月28日、高野山壇上伽藍の根本大塔前特設ステージにおいて「谷村新司NATURE LIVE in 高野山 ～南山進流声明とともに～」を開催しました。

・夕暮れの舞台は高野山真言宗の僧侶による声明からスタート。続いて、高野山小学校児童による合唱、そして谷村新司さんの登場となりました。

・谷村さんは、子ども時代の高野山の思い出など、トークを交えながら、「いい日旅立ち」「昴」などの名曲を披露。最後は高野山小学校の児童とともに「サライ」の熱唱でステージを締めくくりました。

・当日は、厳しい寒さにもかかわらず、県内外から約1300人の方が来場し、会場は世界遺産公演のラストを飾るにふさわしい熱気に包まれました。



●平成22年度新農林水産業戦略プロジェクト 第1弾！

・県長期総合計画に掲げる農林漁業者の所得向上を図るため、生産・加工・流通・販売の総合的な取組を推進する「新農林水産業戦略プロジェクト推進事業」を平成21年度から実施しており、今年度も4月1日に第1弾として、橋本市養鶏農業協同組合による「新鶏種導入によるこだわり卵の生産、加工品開発と販路開拓」プロジェクト（実施地域：橋本市）を承認しました。

「プロジェクトの概要」

ボリスブラウン種導入によるこだわり卵の生産、加工機械の導入及び新商品（プリン、燻製鶏等）の開発、百貨店やホテル、食品メーカー等への販路開拓。



ボリスブラウン種



こだわり卵

・今年度も、和歌山の農林水産業がますます元気になるよう積極的に働きかけ、取組の拡大に努めてまいります。

●「古座川」を新たに県立自然公園に指定

・3月30日、清流で有名な「古座川」を13番目の和歌山県立自然公園に追加指定しました。公園区域は古座川とその支流（小川、佐本川、平井川、添野川）沿いの区域と平井川上流部及び將軍山南部の森林地域で構成され、公園面積は、6,241ヘクタールで和歌山県立自然公園として最も大きな自然公園です。

・古座川とその支流周辺には岩壁・岩峰や美しい溪谷が多く見られ、変化に富んだ河川景観を楽しむことができます。「古座川の一枚岩」「滝の拝」はこの公園を代表する景観探勝のポイントになっています。また、上流部には大足谷など優れた自然植生の森林、さらには、「まぼろしの滝」「平井川溪谷」など優れた景観を楽しむことができます。

・今後は、地元市町村と連携して保全を図るとともに、自然観察会などの自然ふれあい事業の開催、案内看板など利用施設の整備を図ります。

（自然環境室のホームページアドレス：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032500/index.html>）



【古座川の一枚岩】



【滝の拝】

● 「米国人ジャーナリストが選ぶ日本食品10選」に4和歌山県産品が堂々選出！

・3月2日～5日まで、アジア・環太平洋地域で最大規模の国際食品・飲料専門展示会「FOODEX JAPAN 2010」が、千葉県幕張メッセで開催されました。世界59の国と地域から、食材や食品が出品され、国内外からバイヤーら約7.5万人の来場がありました。

・その時開催された、「米国人ジャーナリストが選ぶ日本食品10選」に、FOODEXに出展している企業39社89品目の応募の中から、和歌山県内から堂々の第1位に「あんぽ柿（干し柿、JA紀北かわかみ）」、第4位に「元気で酢（柿酢ドリンク、JA紀北かわかみ）」、第5位に「わがらWAGARA（チョコレート、ショコラル）」、入賞賞品に「山椒水煮（山椒加工品、山本勝之助商店）」が選出されました。

・「米国人ジャーナリストが選ぶ日本食品10選」とは、日本貿易振興機構（ジェトロ）が、米国人有識者（フードジャーナリスト、料理学校関係者等）を招聘し、出展している日本産農林水産物・食品を、話題性・米国人の嗜好・味覚・品質などから総合的に評価し、入賞を決定するものです。



あんぽ柿



元気で酢



わがらWAGARA



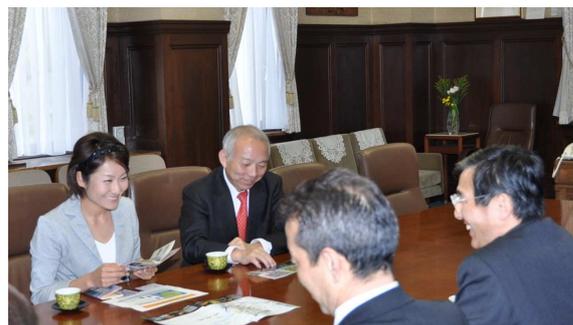
山椒水煮

・「あんぽ柿」は「ドライフルーツは米国でも健康的な食品として人気があり、味が素晴らしい」、「元気で酢」は「爽快な味。どのようなときに飲めば良いのかがわかれば、売れる潜在的可能性がある。米国人はこれまでドレッシングとして酢を使ってきたが、飲むというのは新鮮」、「わがらWAGARA」は「チョコレート自体は他と区別できないが、レーザーを使い着色せずに図柄を浮かび上がらせる技術について、高いデザイン性とパッケージが魅力的」と、それぞれが高い評価を受けました。

● NHK「街道てくてく旅。熊野古道をゆく」始まる！！
～元プロテニス選手森上亜希子（もりがみ あきこ）さんが案内～

・5月10日からNHKで「街道てくてく旅。熊野古道をゆく」が放送されます。
・この番組は、元プロテニス選手の森上亜希子さんが、「春編」では大阪・八軒家浜をスタートし熊野本宮大社、「秋編」では田辺市をスタートし伊勢神宮を目指して歩きます。
・衛星第2、衛星ハイビジョンで月～金の午前8時～8時15分に生放送されます。別途再放送もありますので、是非ご覧下さい。

・4月5日には、元プロテニス選手の森上亜希子さんが、番組のPRに県庁を訪れました。森上さんは、7歳からテニスを始め、17歳でウインブルドンジュニア女子シングルス部門ベスト4。翌年プロに転向し、グランドスラム（全豪、全仏、全英、全米）22大会連続出場など世界的に活躍し、昨年11月に現役引退されました。



「農業緊急戦略アクションプログラム」を策定！！

和歌山県では、県長期総合計画の目標達成に向けて、農業の担い手、農地、生産の3つの対策に関して平成22年度からの5年間に早急に対応すべき課題についての行動計画を「農業緊急戦略アクションプログラム」として取りまとめました。今後、アクションプログラムに基づき、施策を積極的に展開していきます。

県長期総合計画の目標達成に向けた 農業緊急戦略アクションプログラム(平成22年度～平成26年度)

推進の基本的な考え方

担い手が減少するなか家族経営だけで維持できるのか、農地を遊休化させずにどう確保するか、産業としての裾野をどう広げていくか、鳥獣被害により営農の継続が危惧されることへの対応といった喫緊の課題に対し、「農水産物・加工食品の販売促進戦略(販売促進アクションプログラム)」との連携を図りつつ、下記の5つの緊急プロジェクトと10の重点プロジェクトを関係機関・団体との連携のもと重点的に実施していきます。

農業緊急戦略アクションプログラム (3つの対策のための15のプロジェクト)

生産対策

アグリビジネスの推進

【緊急対策】

- ①法人化推進プロジェクト
- ②樹園地整備加速化プロジェクト
- ③業務用野菜の産地化プロジェクト
- ④食品産業と連携した新たな加工品づくりプロジェクト
- ⑤鳥獣被害防止強化プロジェクト

【重点対策】

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| ①中核農家育成強化プロジェクト | ⑥紀州うめの新需要創造プロジェクト |
| ②新たな担い手確保プロジェクト | ⑦かき・ももの産地若返りプロジェクト |
| ③優良農地活用のための施設整備促進プロジェクト | ⑧花きオリジナル品種の生産拡大プロジェクト |
| ④担い手への農地集積プロジェクト | ⑨熊野牛生産拡大プロジェクト |
| ⑤温州みかんオリジナル品種のシリーズ出荷推進プロジェクト | ⑩安全安心農産物の生産拡大プロジェクト |

担い手対策

多様な担い手の育成確保

農地対策

働きやすい農地づくりと有効活用

農水産物・加工食品の販売促進戦略(アクションプログラム)

対策	プロジェクト及び目標(H26)	主な取組項目	指標
共通目標	農家戸数 36,531戸(H17) → 32,000戸(趨勢31,000戸)		
	耕地面積 36,000ha(H20) → 35,000ha(趨勢34,000ha)		
	担い手農家の年間農業所得 農業産出額	407万円(H19) → 550万円 1,026億円(H19) → 1,500億円	
緊急対策	【担い手対策】 ①法人化推進プロジェクト 農業法人数 40法人(H20) → 100法人	JA等による法人化の推進	10法人
		農作業受託組織の育成	20組織
		法人化へのステップアップ支援	30組織/年
	【農地対策】 ②樹園地整備加速化プロジェクト 果樹園の基盤整備率 37.8%(H18) → 40%	樹園地の基盤整備の促進対策	40ha(2地区)
		中山間地域における樹園地の基盤整備の推進	75ha(実施中) 40ha(新規)
		急傾斜園地での乗用単軌道(モノレール)導入の推進	200ha
		省力化が可能な園地改良の推進	低コスト優良園地 41ha → 300ha
	【生産対策】 ③業務用野菜の産地化プロジェクト 業務用野菜の作付面積 60ha	外食産業や加工業者との契約取引の推進	3回/年(商談会)
		農作業受託と省力化機械・施設導入	受託組織設立 2法人、2産地
		自然光利用型野菜工場の設置推進	3産地
		業務用野菜の栽培技術確立	4品目
	④食品産業と連携した新たな加工品づくりプロジェクト 食料品製造業製造品出荷額 1,386億円(H20) → 1,600億円	大手食品・飲料メーカーとの連携による商品開発	3社/年
		生産者グループ等による加工品開発の推進	26プロジェクト(戦略プロジェクト)
		加工需要に対応した園地改良と省力化技術の開発	10ha
		わかやま産品ブランド化支援アドバイザーによる売れる商品づくりへの支援	7件/年
⑤鳥獣被害防止強化プロジェクト 鳥獣による農作物被害額 3.3億円(H20) → 2.5億円	防護柵の設置推進	90km/年	
	捕獲の推進	わな等設置支援 200基/年 有害捕獲支援 5,000頭/年 狩猟免許取得支援 40件/年	
	獣肉の利用促進	取扱店舗 36 → 50 食肉衛生検査 100検体/年 処理施設数 8 → 16	

対策	プロジェクト及び目標(H26)	主な取組項目	指標
重点対策	①中核農家育成強化プロジェクト 認定農業者数 3,613経営体(H20) → 4,500経営体	認定農業者等の経営多角化の推進	認定農業者 新規認定100件/年
		認定農業者等の経営規模拡大の推進	経営面積 1.6 → 2.2ha/戸
	②新たな担い手確保プロジェクト 新規就農者数 147人/年(H20) → 200人/年	先進農家での雇用研修による新規就農支援	就農相談会 10回/年 雇用研修支援 30名
		就農初期の経営安定化支援	特待生 3名/年
	③優良農地活用のための施設整備促進プロジェクト 担い手への農地集積率 38.4%(H20) → 50%	基盤整備を実施した農地の活用促進	農業用施設等の導入面積 4ha
		農業水利施設の長寿命化の推進	機能診断 140km→455km 保全対策 12km
	④担い手への農地集積プロジェクト 担い手への農地集積率 38.4%(H20) → 50%	耕作放棄発生防止のための農地貸借の推進	樹園地集積面積 300ha
		耕作放棄地の再生利用の推進	150ha
	⑤温州みかんオリジナル品種のシリーズ出荷推進プロジェクト オリジナル品種の栽培面積 292ha(H20) → 550ha	YN26・ゆら早生・田口早生の生産拡大	YN26・ゆら早生 175 → 300ha 田口早生 117 → 250ha
		中生・晩生新品種の選抜	中生種1品種 晩生種1品種
⑥紀州うめの新需要創造プロジェクト 新商品開発数 5商品	園地の若返りによる安定生産	優良品種等への改植 100ha 「NK14」の導入 100ha	
	新たなうめ関連商品の開発と販路開拓	5商品 8回/年(消費宣伝・販路開拓)	
⑦かき・ももの産地若返りプロジェクト 未成園率 かき 2% もも 1% (H20) → 10%	園地の若返りによる安定生産	未成園率 かき 2%→10% もも 1%→10%	
	園地整備による高能率優良園地づくり	50ha	
⑧花きオリジナル品種の生産拡大プロジェクト オリジナル品種の栽培面積 3ha(H21) → 20ha	県オリジナル品種の育成と産地化	3品目(スターチス、スイートピー、バラ) オリジナル品種の作付面積 3ha→20ha	
	育苗施設の導入推進	2カ所	
⑨熊野牛生産拡大プロジェクト 飼養頭数 2,900頭(H20) → 3,500頭	優良血統繁殖雌牛の導入促進	15頭/年	
	遊休畜産施設の活用促進	3カ所	
⑩安全安心農産物の生産拡大プロジェクト	出荷前段階での農薬残留検査の推進	500件/年	
	GAPの導入促進	10 JA	

「和歌山県産業技術基本計画を策定」！！

県では、新技術の創出を推進することにより本県経済の活性化を図ることを目的に、昨年10月、「和歌山県新技術創出推進条例」を制定したところですが、和歌山県産業技術戦略会議を経て、このたび、この条例に基づく基本計画として「和歌山県産業技術基本計画」を策定しました。

・この計画は、「『産学官連携チームワークNo.1』を目指して」をキャッチフレーズに、「ロボット等加工・組立技術分野」、「化学・ナノテクノロジー分野」、「医療福祉、バイオ・食品分野」、「エネルギー・環境分野」の4分野を重点的に推進すべき分野として位置づけて、先端的な新たな産業の振興と既存産業の高付加価値化を図り、活力あふれる和歌山県経済の実現を目指すものです。

和歌山県産業技術基本計画の概要

1. 計画期間

5年間（平成22年度～平成26年度）

2. 基本計画の目指すところ

- 本県におけるイノベーションの伝統をさらに発展させ、次代へと引き継いでいくとともに、その成果を確実に地域産業の振興に結びつける
- 「産学官連携チームワークNo.1」を実現することにより、本県産業の高度化と地域経済の活性化を図る

3. 戦略的分野

○重点的に推進すべき分野

- ①ロボット等加工・組立技術分野 ②化学・ナノテクノロジー分野
- ③医療福祉、バイオ・食品分野 ④エネルギー・環境分野

○ツール

産業技術に関する情報の整理、資金の確保、人的資源の集積とネットワーク化、産学官連携研究の実施、人材の育成

○その他

多様な資本を用いた研究開発プロジェクトの実施、知的財産の経営管理への活用、県外組織の活用

4. 具体的な取組

○研究開発プロジェクトの組成推進 ○ハード、ソフトと「感性価値」との融合化促進 ○知的財産の尊重 ○高等教育機関との連携強化 ○支援機関の活用

5. 数値目標

○今後5年間における工業製品出荷額、従業員数、付加価値額を、それぞれ5%、3%、5%増加させることを目標とする。

○このうち、重点的に推進すべき分野における中小企業の工業製品出荷額、従業員数、付加価値額については、それぞれ15%、5%、15%増加させることを目標とする。

計画の内容は、和歌山県産業技術政策課のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/index.html>

「ふるさと歳時記（日高川町編）」

～ 道成寺・我が町自慢（笑い祭り、ヤッホーポイント、焼き鳥の長さ
藤棚ロード（日高川町）～

道成寺（表紙写真）

・701年建立の道成寺。文武天皇勅願所、そして、夫人、藤原宮子の祈願所として建立されました。なぜ道成寺という名前に？…それは、紀道成（きの みちなり）によって建てられたので、その名「道成」から道成寺になったといわれています。有名な道成寺の「安珍清姫の物語」は、熊野に参拝する途中、一夜の宿を求めた僧、安珍にその家の娘、清姫が恋をし、参拝の帰りに寄る約束をしたのですが、安珍は寄らずに逃げてしまいます。怒り、蛇となった清姫が、道成寺の鐘に隠れた安珍を焼き殺し、川に飛び込むという悲恋の物語。能楽や歌舞伎でもよく知られています。

丹生神社と笑い祭

・毎年体育の日の直前の日曜日に催される「丹生祭」。（県無形民俗芸能「丹生祭」）道化した衣装と化粧の先達（鈴振り）が「笑え、笑え」と町内を練り歩く楽しい祭りです。（江戸時代から伝承）この祭りの由来は？それは、昔、神代の頃のこと。出雲の神様の集まりに寝坊をしてしまった丹生都姫。ふさぎ込んでしまったことを村人たちが心配して「笑え、笑え」と慰め勇気づけたことから「笑い祭」が始まったと伝えられています。

日高川町自慢

●ヤッホーポイント：「日本一楽しい山彦スポット」として、テレビでも紹介されている日高川町「椿山ダム湖」。和歌山市在住の貴瀬誠さん（横笛作家・石笛奏者、やっほーおじさん）が、椿山ダム湖で山彦調査を実施し、発見しました。「やっほー！」と叫ぶと対岸から大きな山彦が返ってくるのです。まわりの美しい自然を満喫しながら日本一の山彦を体験してみませんか。

●焼き鳥の長さ：「紀州備長炭生産量日本一」の日高川町。そのPRにと3年前焼き鳥の長さ世界一に挑戦しました。日高川町はホロホロ鳥の産地でもあります。「焼き鳥」は、ホロホロ鳥のPRにもなり一石二鳥でした。過去には、焼き鳥の長さ世界一にも輝きましたが、その後全国各地の挑戦もあり、抜きつ抜かれつで、デッドヒートを開催中。現在の世界記録は24.24mですが、日高川町内には、この記録を抜く長い竹（一本串にできるもの）が見つからず、去年は自己記録の更新（22m）を目指し、見事達成しました。

●藤棚ロード：リフレッシュエリアみやまの里（旧美山村）森林公園内の長さ日本一（1,646m）を誇る見ごたえのある藤棚ロードです。

毎年4月下旬頃から5月初旬にかけて当地では「藤まつり」を開催しており、京阪神方面からも多数の来園者が訪れます。高低差96mの健康階段を登ったところにある展望台からは、藤棚ロード、また県下一の規模を誇る椿山ダムを一望できます。

日高川町ホームページ <http://www.town.hidakagawa.lg.jp>

～編集後記～

今年は寒の戻りが厳しく、和歌山でもついこの間まで大変寒い日が続いていましたが、ようやく春めいてきました。

県では、4月1日付けの人事異動による新たな体制が始動しました。

今年度も引き続き「和歌山だより」の編集をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

新年度を迎え、街には、いかにも新社会人と見受けられる初々しいスーツ姿の若者が生き生きと闊歩しています。しかし一方では、厳しい経済状況の中、全国的な就職難のため、4月に入っても職を求めて日々会社訪問をする新卒者が多くいるなど、心が痛む報道が日々新聞、テレビ等で流れています。

県庁では、4月1日、平成22年度新規採用職員69名（うち女性23名）に辞令が交付され、それぞれの所属に配属されました。新職員の皆さんは、県職員として明るい「希望」を胸に抱きつつ、県民の大きな「期待」を背中に負っていることを肝に銘じて仕事に取り組んでほしいと思います。

和歌山県は自主財源が乏しく、財政状況が厳しいことから、行財政改革を鋭意すすめています。県の職員数は年々減少せざるを得ません。しかし、県民の生活を守り、「元気なわかやま」の実現に向けた取り組みは、待ったなしです。

こうした時代であるからこそ、新規職員はもちろん、県職員全員が県民のために仕事ができる幸福を噛みしめて、頑張らなくてはならないと思います。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等でお願ひします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2010年（平成22年）4月 NO.25

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022